



## 「モッタイナイは終わり！ロールの扱い方講座！」

梅雨に入り、蒸し暑い時期が始まりました。体調管理には十分気を付けましょう。さて、先月号では、牧草の夏枯れ対策として、刈取の注意点等についてご紹介しました。そうして刈り取った牧草もラッピングの仕方次第では、品質劣化につながります。そんなのモッタイナイ！そこで、今回は「刈取後のロールの扱い方」についてお話したいと思います。



今回は、サイレージ調製の場合で考えるぞ！  
いろんなモッタイナイを学んで  
ロールの扱い方を再確認じゃ！

牧草収穫のポイントは  
市場通信6月号を確認してね！



### モッタイナイ その① せっかくロールしても...



この状態での放置は  
アウトです!!!

「雨も降らないし明日ラップすれば良いか！」とってその日の作業を終了していませんか？これは**ダメ！**サイレージにするためには**嫌気性発酵**、つまり「**空気がない**」状態をすぐに作る**ことが重要**です！

### ▶▶ ロールしたら即日ラップしよう！

ロール作業をする際は、ラップ作業の時間を考慮しながら計画的に進めましょう！

### モッタイナイ その② 小さい穴が大きな損失



右の写真のように、カビが広がってしまうと牛に給与できません。カビの部分だけ取れば良い！と思いがちですが、**目に見えずともカビ毒はロール内部まで侵入**しています。カビ毒吸着材の給与なども一つの手段ですが、**まずは、カビを発生させないこと！**カビ発生の最大の原因は、**フィルムの破損によるロール内への空気の侵入**です。これを防ぐには…？

### ▶▶ ラップは保管場所で行おう！

ラップしてからのロール移動回数を最小限にするため、「**ラップ作業は保管場所で行う**」が**原則**です。ラップ後の移動回数が多くなるほど、穴あき、変形などのリスクが高まり、品質不良につながります。

小さな穴から  
キノコが  
生えちゃうこと  
も!?



### よくあるご質問 🗨️ 圃場でしかラップできない場合は？

保管場所にスペースがないなど、やむを得ず、圃場でしかラップ作業が行えない場合は、以下のことに注意しましょう！

- ・フィルム巻き数を「**3回6層以上**」にする
- ・ラップ後はすみやかに圃場の端に移動させる  
⇒ 発酵が落ち着くまで3週間程度は動かさないようにしましょう
- ・穴あきは速やかに**農ビ補修テープ**で補修する  
⇒ 圃場に限った話ではありませんが、穴あきの放置は腐敗の原因につながります。ラップ後、移動後の点検はしっかりと！小さな穴でも油断せず、確実に補修しましょう。

実は、ロールの置き方にもポイントがあるんです。これについては次のページで説明します！



# モットイナイ その③ ロールの置き方次第で...

実は…ロールの置き方次第で、品質劣化や破損のリスクは変わります。ここでは、意外と知られていないロールの置き方についてご紹介いたします。できるものだけでもやってみてください！

## ▶▶ ロールは縦置きにしよう！

ロールを横置きしていると、変形してしまい、フィルムに隙間が！カビの発生や雨水の侵入につながります。**縦置きにするだけで、端面が引っ張られ、密封性◎、品質の保持**につながります。

## ▶▶ 積むときは2段までにしよう！

3段以上積んではダメなのは「危ないから」はもちろん、まだ他にも理由があるんです。**3段以上積むと、上のロールの重さで1番下のロールが変形し、ラップの緩み、空気の侵入、品質不良**につながります。

## ▶▶ 鳥獣害対策は、電気柵以外にも！

鳥獣害対策と言えば、「電気柵」でしょうか。熊の対策にはとても有効ですが、最近よくある相談は「**ネズミ**」電気柵を張ってもネズミはすき間をかいぐってきます。

そこで、やってみて欲しい対策は

### **ロールとロールの間隔を人が通れるくらい離すこと**

ネズミは天敵である猛禽類等に上空から見つかってしまうことを恐れるので、この対策だけでも被害の拡大を抑えることができます。



カラス対策は、ネットやテグスを張る方法が◎  
収納当日にすぐ対策しましょう！



## 《牛を大きく育てよう！》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

マニュアルのダウンロード  
はこちら→  
p.19～24をご覧ください



### ○ 昼間分娩への誘導について

夜中の分娩は人の目が行き届きにくく、難産や子牛の死亡事故の発生リスクが高まります。

そこで、**昼間(一般的に人が活動している6時～21時頃)に分娩**するよう誘導する方法として、「**夜間給餌法**」があります。確実に分娩に立ち会い、必要に応じて分娩前後の介助ができるよう実践してみましよう。



#### 夜間給餌法

- 毎夕(15～17時頃)に1日分の飼料を給与  
※分娩予定日の2週間～10日前から開始  
※昼間に隣の牛などから盗食することのないよう注意
- 翌朝、残飼を全て撤去
- 水は不断給与

下の表は、夜間給餌を実践した県内の農場における、時間帯別分娩頭数です。(調査期間：R5.10.1～R6.5.31)

この農場では、毎日15～16時頃に給餌したところ、**約75%の牛が昼間(6時～21時)の分娩**となりました。

表 夜間給餌を実践した県内の農場での時間帯別分娩頭数

分娩時刻	2～6時	6～10時	10～14時	14～18時	18～21時	21～翌2時	計
頭数	5	6	5	11	14	8	49

**昼間の分娩が約75%(36頭/49頭中)**

※夜間給餌法の他、確実に分娩に立ち会えるための取組の一例として、監視の強化、ICT機器の併用もあります。



お問い合わせ >>>

奥州農業改良普及センター 0197-35-8451

一関農業改良普及センター 0191-52-4961